

「医工学治療とヒューマンエラー」

板橋中央総合病院血液浄化療法センター

阿岸鉄三

「人は間違いをするものである」ことを認識し、受容しないで、「あってはならないこと」といってしまえばヒューマンエラーについてのディスカッションは始まらない。血液浄化の医療領域にかかわりを持つようになって40年間、めざましい医療機器・機材の進歩を見てきたが、人間の操作能力の進歩は限定的であった。しかし、その人間が機器・機材を開発してきたという奇妙な図式がある。人間はバーチャルな世界を構築することができるが、機械は、確率的に精度の高い稼働をしても自らバーチャルな世界の稼働をすることはしない。医工学治療においては、稼働条件を設定・操作する人間と機械、機械と治療を受ける患者の間に人間 - 機械の界面が生まれる。現代に生きる者は、機械の特性を理解しなければ、日常的に簡単に生命の危機に晒される。「これをしたらどうなるか」「これをしなかったらどうなるか」と予知・予測することはバーチャルな創作であるが、人間特有のリスクを回避する重要な能力といえる。ヒューマンエラーは、最近では、個人の特性によるというよりは、人間を取り巻く心理的・物理的環境の諸作用を含めた概念として取り扱われる。そこでは、事故多発者は、観念的に存在しない。医療におけるリスク・ヒューマンエラーを避けるため、各種の法令を最上層に、マニュアルに至るまでいろいろな規則が階層構造をつくりながら定められている。項目的・分析的なマニュアルでは創造性が育まれないが、ナラティブな表現に慣れてことで発達する。さらに、順守する精神をインフラストラクチャーとしなければ作られた規則には意味がない。この精神的インフラストラクチャーを規制するのが、宗教・スピリチュアリティ・道徳・教育などである。現代日本に発生している医療を含めた社会的な危機状況は、この精神的インフラストラクチャーを規制する諸要素のぐらつきに由来する。そのぐらつきは、第二次世界大戦終了時まで受け継がれた儒教的精神を深層に持ち、その上にその後の米国的自由経済至上主義を表層に持ちながら、TPOによって表情を変える判断基準の不確定・不確実性による。ぐらつきを増悪させる因子は、ITの進歩・発達によって一気に氾濫するように流動する無秩序な情報であると考えられる。インターネット機能に慣れ親しんでいるうちに、すべてに権威が認められなくしまっている。われわれは、米国発信の医療についての思考に違和感を覚えながらも、したがわなければならない現実に向き合っている。公序良俗が確立できない社会においては、諸方面におけるリスク・ヒューマンエラーを制御することができない。